



## 〈目標 13〉 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

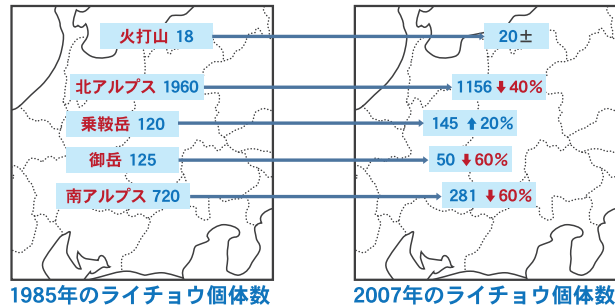
気候変動の影響は地域によって異なる形で現れることが想定され、各地でその影響に合わせた適応策を考えなければならないだろう。森林の多い日本では自然植生が変化し、それによって生態系サービスに影響を与えると考えられている。

### フラッグシップ種から地域の変化を捉える

高山帯に生息する動植物への影響が現れるフラッグシップ種のひとつがニホンライチョウ(以下、ライチョウ)だ。ライチョウは本州中部の高山帯に生息しているが、正確な生息数は把握されていない。広い高山帯での調査は限られた専門家だけでカバーできる領域ではないことがその原因となっている。欧米では一般市民から情報提供を受けて、それを専門家が解析することで広範囲の情報を得るという手法をとっているが、日本でも登山者からデータを収集するための試みが始まっている。

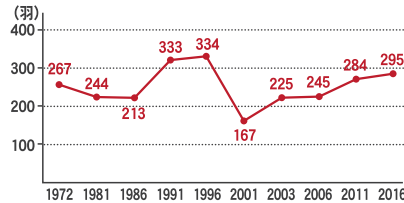
妙高市にある一般社団法人新潟アウトドア企画では、ライチョウの生息情報を収集するために登山者を対象とした2泊3日のモニタリングツアーを実施している。登山者は調査目的の専門家に比べ山の中

日本のライチョウの個体数の変化



信州大学生態学研究室の調査結果による

富山県におけるライチョウの推定生息数



出典:128立山地域におけるライチョウ生息数調査の結果(富山県自然保護課)

日本における気候変動の影響

気温	気温	3.5~6.4℃上昇
	降水量	9~16%増加
	海面	60~63cm上昇
災害	洪水	年被害額が3倍程度に拡大
	砂浜	83~85%消失
	干潟	12%消失
生態系	ハイマツ	生育可能な地域の消失~現在の7%に減少
	ブナ	生育可能な地域が現在の10~53%に減少

出典:環境省 環境研究総合推進費 S-8 2014年報告書

での行動範囲が広く人数も多い。また、鳥や自然が好きな人が多く、温暖化や自然環境の変化に対する感度も高いと考えている。ツアーでは座学でモニタリングの意義、ライチョウの生態や山の基礎情報を聞いた後、ハンディタイプのGPS機器を携えて山に入り、使い方を学ぶ。普段は各々で登山をしているのに、専門家と一緒に山に入れるということも魅力につながっているようだ。



ライチョウ(写真提供:一般社団法人新潟アウトドア企画)

まだ集めた情報の開示・共有方法に課題があるとのことだが、今後、基礎調査の重要性が認められれば各地にも広がっていくだろう。気候変動の影響は地

域によって異なる形で現れるので、高山環境に限らず各地で調査が行われることが望ましい。温暖化は誰もが関係しており、誰もがなにかしらでできることでもある。ライチョウの観測をきっかけに日々の生活にも思いをはせることにつなげたい。



- 地域によって異なる気候変動の影響を動植物の変動で観測する。
- 科学的なデータ収集のために一般市民の協力を得る。
- モニタリングに携わる市民に環境意識を持ってもらう。

### ライチョウの生息域

ライチョウの生息域は頸城山塊、北アルプス、南アルプスを中心とした高山帯である。氷河期の後、取り残されたと考えられている。1980年代の生息数は約3,000羽と推定されていたが、2000年代には約2,000羽弱に減少したと推定されている。

環境省第4次レッドリスト(2012年8月)において、絶滅危惧Ⅱ類(VU)から絶滅危惧ⅠB類(EN)にカテゴリーが引き上げられた\*。

\*第一期ライチョウ保護増殖事業実施計画書(平成26年4月)より引用

[一般社団法人 新潟アウトドア企画] <http://www.myoko-noasobi.jp/>

